

61 地域への医師派遣数

○項目の解説

国立大学附属病院が医師派遣を通してどの程度地域医療へ貢献しているのかを表現する指標です。ここでいう医師派遣とは、法的な根拠に基づくものではなく慣例的な呼称です。地域医療で必要とされる専門性の高い医師を供給し、何らかの理由により欠員が生じた場合でも責任を持って後任者を派遣し続ける一つの形態をいいます。地域医療を支えるための大学病院の重要な役割の一つと言えるでしょう。地域住民にとって「顔が見える医師」であることも必要と考え、常勤の勤務形態を取っている場合のみを対象とします。週1回程度の非常勤や短期派遣は含めていません。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

当院は、昭和51年の開院以来、高度な先進医療を提供するとともに、次代を担う国際的にも活躍できる医療人の育成に努めてきました。同時に、医師不足が極めて深刻な問題となっている道北・道東地域へ医師を派遣し、広大な北海道における医療を支えています。大学病院も医師確保に苦慮している現状もあり、地域への医師派遣数は横ばい傾向ではありますが、今後も引き続き道北・道東地域を中心に北海道の医療に貢献していきたいと考えています。

○定義

当該年度6月1日時点での、地域の医療を安定的に維持することを目的に、常勤医として、自院の外へ派遣している医師数です。自院の分院への派遣は含みません。同門会などからの派遣についても含めて計上します。

○算式

実数